（松本地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	新しい農業の発信地・松本モデル事業
事業主体 （連絡先）	松本農未来プロジェクト （0263-34-3221　事務局　松本市役所農政課　担当　松田）
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大（イ　農業の振興と農山村づくり） (1)地域協働の推進
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	５，０７１，４６９円（うち支援金：３，１７５，０００円）

事業内容

１　農業体験ツアーの開催

令和6年度の試験ツアーを経て、令和7年度から松本農未来プロジェクト主催、観光協会販売により、農家の日常をウリにした「コアな農業体験」を商品化。新規就農希望者など関係人口の創出を目指して販売・実施。

２　農業体験、農業研修場としての機能に関する面的整備

契約農場を、農業体験ツアーや新規就農者の体験圃場としてだけでなく、企業研修や学校の農業学習など、多様な利用者受け入れが可能にするための施設として整備。

⑴　簡易水洗トイレ　　体験ほ場の機能性向上のため、地区内３農場に仮設トイレを１台ずつ設置

⑵　キッチントレーラー　農業体験ツアーや地域内イベント等で使用するため１台導入

⑶　スマート農機具　　農業体験・農業研修を魅力的なコンテンツとするため農作業器具を１台導入

事業効果

１　農業体験ツアー

全３回の開催で、のべ１３名の参加。ツアー開催以降、参加者から移住や就農について具体的な相談があるなど、現在も連絡を取り合う関係を構築できた。リピート参加者もおり、農業への関心が高い方に対しては的を得た企画であったと手ごたえを感じている。

２　簡易トイレの設置

参加者の利便性が向上し、長時間の農作業体験が可能となった。

３　キッチントレーラーの導入

道の駅で農産物加工商品販売のデモンストレーションを実施。来訪者に向けて地元農産物のPR、団体の活動PRを行い、地域認知度の向上につなげることができた。納車が大幅に遅れたため、今年度の農業体験ツアーでは活用できなかっ

【農業体験ツアーの様子】

【ｷｯﾁﾝﾄﾚｰﾗｰｲﾍﾞﾝﾄの様子】

【目標・ねらい】

農業体験ツアーを通じた農業の魅力発信による新規就農者と関係人口の確保

※自己評価【Ａ】

【理由】

・参加者からの移住・就農についての「具体的な相談」が発生し、体験が単なる興味の醸成にとどまらず、実際の行動変容につながった
・リピート参加者の発生など、参加者との継続的な関係構築ができた
・整備した施設が実運用で効果を発揮し、特にスマート農機具の体験を通じて「農業＝重労働」というイメージを払拭できた
・キッチントレーラーによる道の駅でのデモンストレーション活用によ

たが、次年度以降の本格活用に向けて複数計画を立てている。

４　スマート農機具の導入
　体験ツアーで参加者に実際に使用してもらうことで、「農業＝重労働」というイメージの払拭につなげることができた。

り、ツアー参加層以外への地域 PR と認知度向上が実現した
・複数の次年度展開計画が立案され、事業の持続可能性と発展性が具体的に実証された

今後の取り組み

〇令和 8～9 年度（準備・構築段階）
・引き続き元気づくり支援金を活用し、運営体制の強化と資機材の充実を図る
・農業体験ツアーの回数・コンテンツを拡充し、継続した参加者確保を進める
・キッチントレーラーの本格活用
・ツアー参加費収入等の獲得により運営基盤を確立する
〇令和 10 年度以降（自走化段階）
・ツアー参加費収入を主軸として、事業の自主財源化を実現する
・キッチントレーラーを活用したイベント出店・地域イベント参加により、収益機会を多角化
・元気づくり支援金終了以降は、事業の自走化
〇将来的な発展方向
・農泊事業の展開により、ツアー参加層の長期滞在需要に対応する
・空き家活用による宿泊機能の提供で、新規就農研修生の受け入れ体制を構築
・ふるさと納税やインバウンド対応など関連事業を展開
・これらにより、持続可能で発展的な地域活性化モデルの確立を目指す

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある